

特別支援学級における自立活動の授業づくり
—心身の育ちを支えるものづくり・表現活動の実際—

宇田 康助、望月 綾夏（和歌山市立木本小学校）
今村 律子（家政教育）
菅 道子、上野 智子（音楽教育）
山崎 由可里（特別支援教育）

1. はじめに

昨年度、木本小学校特別支援学級低学年の授業において、牛乳パックを利用した編みぐるみ製作を本研究代表者と一緒に実施した。当該学級に在籍する児童はみな共通して情動のコントロールや人とのかかわり、手指の巧緻性、自己表現に困難さや課題があるため、日常の生活の中で「生き辛さ」が生じている。編みぐるみの製作後に、簡易織機を作成してコースターづくりも実施し、手指を動かすことが児童の発達や自己表現の一助となったと考える。

そこで、今年度はより良い自立活動の授業づくりを目指して、手指の巧緻性ととどまらず、子どもたちの発達の支えになる授業づくりを検討したいと考え、自立活動指導区分「2 心理的な安定（1）情緒の安定に関すること」「3 人間関係の形成（1）他者とのかかわりの基礎に関すること」「5 身体の動き（1）姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること」を取り出して実践研究を進めることとした。

2. ものづくりをテーマにした自立活動の授業づくり「クリスマスリースを指編みで作ろう！」

(1) 対象児童 3年生7人、4年生2人 合計9人

(2) 実施日：2019年12月9日、16日 全4時間

実施前の7月16日、11月22日、27日に打ち合わせと動画作成を行った。

(3) 実践内容

赤・緑のアクリル毛糸を用い、指編みでそれぞれ一定の長さに編み、それにモールを合わせて三つ編みにしてリースの形に整えた。その後、手芸用ボンドを用いてリースの上に右上写真のように飾りつけを行い完成させた。指編み方法は、写真と動画の両方による視覚支援によって提示した。全員が作品を完成させることができ、作品をお互いに評価し合い、完成を喜んで集合写真を撮影し授業を終えた。



(4) 個への対応

手指の巧緻性が低く、上手くできないとイライラに繋がる情動のコントロールが著しく困難な児童Aは、1日目の授業で指編みがうまく出来ず、早い段階で教室から出て行ってしまった。その後、個に応じた支援として牛乳パックの編み機を勧めると児童Aも納得し、2日目の授業には参加可能となった。ただし、毛糸の緩さが原因で片手での作業がうまく出来ず、イライラして作業を放棄し

ようとしたが、授業者がしっかりと毛糸を締め「これで大丈夫」と声をかけたことで気持ちを立て直し、作業を続けることができた。児童Bは、もともと手先が器用で、要領をつかむと自分でどんどんと作業を進め、周囲に褒められることで自信を持ち、お友達にも教えてあげるほど上達した。

児童A、Bとも「わかった」「できる」そして「できた」という感覚を覚え、自尊感情を育む一つの要素となる時間となったと考えられる。もちろんその他の児童もその感想から充実感と達成感を覚えたと評価できる。

(5) まとめ

本実践では、動画と写真による視覚支援を用いた。動画は児童に作業の全体像を理解させ、見通しを持たせることに役立ち、写真はそれぞれの手順を理解する手立てとなり、子どもたちが安心して活動できた。作業自体は、単純であり理解しやすいが、指編みは両手を用いるため、一定の手指の巧緻性の高さが要求されることを確認した。その為、作業療法的トレーニングとしても有効であったと感じる。

3. 音楽を活用した自立活動の授業づくり

(1) 対象児童：①1・2年生5人、4年生2人 合計7人、②3・4年生8人

(2) 実施日：2019年12月23日 ①, ②とも各1時間 場所：体育館

実施前の2019年7月16日に打合せ、9月2日、12月9日に授業参観を行った。

(3) 実践内容

ねらい：子どもたち一人一人が心理的に安定して活動に参加できる。

音楽に合わせて自由に身体を動かして表現することができる。

テーマ：「木本小の音楽の時間—クリスマスの音楽—」をテーマとして1時間の活動を設定した。

実践概要：①の授業のおおよその流れは以下の通り。

●学習活動	◇指導の留意点	・準備物
●オープニング 《お返しよう》	・一人一人のお名前を歌い、返事をしてもらい大切な参加者の一人として承認し合う。	・プロジェクター ・キーボード
●歌おうクリスマスの歌 《ジングルベル》の歌と鈴、タンバリンの合奏	・《ジングルベル》、《きよしこの夜》、《赤鼻のトナカイ》から子どもたちが選曲。打楽器の伴奏は自由にするが 繰り返しの1度目のフレーズの後（「鈴のリズムに 光の輪が舞う」～）、打楽器だけの強弱をつけた表現を全員一緒に楽しむ。全員で打楽器演奏する箇所のテンポ・強等は指導者が主導し、一つの音楽の流れが見えるように留意する。	・鈴、タンバリン
●動いて表現しよう 《ジングルベル》 《Sleigh Ride 楽しいそり遊び》 《Plink, Plank, Plunlk》	・円になり、音楽に合わせて一人が創った動きを他全員で模倣する。 先例で動く者は右回り、左回り、中央に集まり、外側に戻る、などシンプルで全員で動きやすいものから始める。次第に一人での身体表現をいれるなど、参加しやすい工夫をして児童へバトンタッチしていく。	・音源 Carpenters: Christmas Collection (Polyg, 2001) L. Anderson : Favorites (BMG インターナショナル, 2000) ・BOSE スピーカー
●クリスマスツリーミュージックをつくろう 《クリスマスツリーの歌》と楽器による即興	・主題のメロディー《クリスマスツリーの歌》(作歌 上野智子・菅 道子)を何度か歌った後、美しい音色をもつ打楽器、星形カリンバまたはハピドラムを使って一人ずつ即興表現を楽しむ。ゆったりと楽器の音色を楽しめるように配慮する。演奏	・楽器 星形カリンバ ハピドラム

<p>●エンディング 《Thank you for the music》</p>	<p>は主題⇒即興 1 ⇒主題⇒即興 2 ⇒主題～という構成で進める。 (導入でクリスマスツリーのタペストリーに飾り付けをする活動を予定していたが、時間の関係で省略)</p> <p>一人一人のお名前を歌い、返事をしてもらい大切な参加者の一人として挨拶をし合う。</p>	
--	--	--

① の活動では、一人一人の心理的な安定と自由な身体表現をねらいとし、一人一人の活動を尊重しながら学級全体の活動が成立するよう留意した。具体的には、1)一人一人が各活動を理解して参加できるよう視覚支援として前方にプロジェクターを配置しパワーポイントで各活動を提示(例えば図1)、2)始まりと終わりを意識し、音楽による呼びかけと答えの活動(《お返ししよう》《Thank you for the music》)を行うことで安心して参加できる場であることを提示、3)楽器を使った合奏、身体表現の際には「どんな表現でも間違いではない」ことを体感し、共有できるよう即興現を重視、の3点に留意した。

実際の授業では、大学教員、菅・上野・山崎による指導のもと、音楽に合わせた自己紹介、ジングルベルなどの歌に合わせた楽器のリズム打ち、みんなで手をつないで輪になって踊るダンスと、バラエティーに富んだ活動を行った。最後に、ハピドラムを児童が順番に自由に鳴らし、音を出す体験を行って自立活動の授業を楽しく実施した。②の活動では、3年生と4年生(一部)グループを対象に、宇田が1時間目の授業を参考にしてその一部を教室において実施した。その際、教師が1時間目と同様に、説明を替え歌で行うと、前述の児童Aが「歌詞が違う!」と強く反発し、情動が不安定になってしまった。その他の児童は楽しく身体を動かしながら楽しむことができた。

(4) 成果と課題

みんなで輪になってダンスをする場面では各々が思い思いのダンスをして表現する時間が設けられ、身体を音楽に合わせて動かすことの楽しさを味わうことができた。また、普段見たことのない楽器に触れることができ、子どもたちは目を輝かせながら活動している様子が印象的であった。児童Aが替え歌に対して強く反発したことから、その際の指導法を検討する必要がある。

大学教員と小学校教員とが授業について十分に検討を重ねて実施する時間がなく、主指導も大学教員が行った。その為、学校教員が十分に授業の展開を理解できておらず、有効な支援ができたかという点については今後の課題といえる。

図1 「クリスマスツリーミュージックをつくろう」の活動の流れ

